

## 三田ヶ谷小学校の再編成を考える

三田ヶ谷小学校を考える会

会長 平野賢治

小学校とその学区は日本の優れた伝統的システムです。

しかし、今、小学校の再編成は全国的に、そして、急速に進んでおり、ここ三田ヶ谷小学校でもついにその問題と直面することとなりました。

長い歴史の中で慣れ親しんできた学び舎がその役目を終わることに対して、私たちも共に学んだ者として断腸の思いであることは言うまでもありません。

以上を踏まえ、私たちは、この地域の子どもたちに、将来的にもより良い教育環境を整えるにはどうすべきか、次のように考えるものです。

### 1. 再編成は、やむを得ないのでは！

#### 《理由》

小学校区は地域にとって非常に重要な計画単位であり、小学校自体の持つ地域の拠点としての役割も大きなものがあると言えます。

しかし、①近年の児童生徒数の大幅な減少や ②学校教育施設としての老朽化 ③さらにこれらを維持管理していくための多額の予算の確保など、大きな問題が山積し現在の学校数のまま推移していくことは困難であると考えます。

それらのことから、市の教育委員会が、適正規模・適正配置に関する基本方針（案）を示しておりますが、現在の小学校と再編成することによりできる新しい小学校に、それぞれメリット・デメリットがあることも、十分理解するところであります。

市の教育委員会が、地域が、そして教育現場がおかれている現況を考えると、現在進めている三田ヶ谷・村君・井泉小学校の再編成の基本方針は、現状、やむを得ないものと考えるところであります。

### 2. 再編成学校の選定について

#### 《理由》

ご承知の通り、三田ヶ谷小学校は、敷地前には「県立羽生水郷公園」と淡水魚の「さいたま水族館」、さらには国指定天然記念物である「宝蔵寺沼ムジナモ自生池」など、地域環境が抜群に優れており、子供たちの環境教育等に最適であります。

また、詩人・作詞家である「宮澤章二」の母校であること、さらには、小説「田舎教師」（田山花袋作）の舞台となった弥勒高等小学校にゆかりがあります。

これらのことを踏まえ、3校の再編成学校をこの三田ヶ谷小学校に選定することも、選択肢の一つとなるものと考えます。

もし叶わないとしても、この自然環境に恵まれ、文化薫る学校を、是非とも何らかの教育拠点として活用いただけることを切に願うものであります。



以上

## 三田ヶ谷小学校の再編成について

元三田ヶ谷小学校 PTA 会長

須永、弘

寺崎高夫

栗田健一

今、小学校の再編成は全国的に、そして、急速に進んでおります。  
また、現在の学校教育制度上は、小学校は一定規模が保たれることが理想とな  
っております

しかし、現実には理想との乖離が大きく、児童生徒数の減少が進む三田ヶ谷小学  
校でも、その問題に直面いたしております。

学校の再編成とは、複数の学校を一つにして他の学校はなくなるということ  
です。長年慣れ親しんできた学び舎がそうでなくなることに對して、私たち古く  
から学んだ者としても大きな決断を強いられます。

しかし、未来の担い手である子供たちのために、今の時代に生きる大人たちが  
何をすべきか、考えなければなりません。

そこで、現状、『再編成はやむを得ないのではないか。』との視点に立ち、メリ  
ット・デメリットがあることを前提に、以下の必要な支援や改善について、関係  
各位の絶大なる努力をお願い致します。

①子供たちのことを第一に考え、将来を担う子供たちにとってどのような学  
習環境が一番望ましいのかを念頭に、現状の分析と将来の推計、また、文部  
科学省の示す指針や基準、そして、保護者への丁寧な説明と意見の聴取など  
を基に、今後も慎重に進めていただきたい。

②小学校は地域にとって重要な拠点であり、地域防災の避難所であり、児童生  
徒の遊び場として、また、地元の運動会などの地域コミュニティの拠点と  
しての重要な役割も持っています。

このような小学校が無くなることにより、住居地としての魅力が減少いたす  
ことが懸念されます。

このことにより、三田ヶ谷地区における住民の減少が起こらないように、  
そして三田ヶ谷地区に住みたい方が、容易に家を建てることが可能な配慮に  
ついて、市当局及び関係各位に強く望むものであります。

以上



# 三田ヶ谷小学校の存続に関する請願について

令和4年2月28日

羽生市教育長 秋本 文子 殿

請願者代表

氏名 西山 佳孝

住所

連絡先

## ○請願要旨

- 1 三田ヶ谷小学校を廃校とせず、存続させていただきたい
- 2 三田ヶ谷地区の過疎化への対策を講じていただきたい
- 3 小中一貫校を作るのであれば、三田ヶ谷小学校を校舎としてもらいたい

## ○請願理由

市の掲げる学校再編成により、児童の減少する三田ヶ谷小学校が令和7年3月をもって廃校となり三田ヶ谷、村君、井泉三校が統合される方針が示されました（羽生市立小中学校適正規模・適正配置に関する基本方針（案））。これに対し、保護者のひとりとして三田ヶ谷小学校の存続を働きかけていくこととし反対の署名を集めました。全国的に少子化による人口減少は喫緊の課題でありその中でも三田ヶ谷地区の過疎化は著しく、市内の過疎化の偏在に対しての対応をまず行って、児童数を減らさないように対策を行ってからでも遅くはないと思います。児童自身の住む地域を大切にするという思いが薄れてしまう恐れがあり、アイデンティティの喪失につながります。学習は学校の最もたる役目ではありますが、子供たちの地域愛、尊厳を養うことも教育として重要であると考えます。地域の小学校がなくなると子育て世代の居住が敬遠され、三田ヶ谷地区の過疎ならびに少子高齢化が一段と進み、さらなる地域の衰退ひいては消滅となります。また空き家が増え火災や治安の悪化する可能性があります。他の地域に離れて暮らしている若い世代の三田ヶ谷地区へのUターンを地域全体で促進し、それと同時に三田ヶ谷地区から都市部への人口流出も防いでいかなければなりません。市と三田ヶ谷地域全体で、知恵を絞って過疎対策をする時期だと思います。三田ヶ谷小学校の廃校は時期尚早であり、白紙撤回を要望いたします。

三田ヶ谷小学校保護者 西山佳孝 萩原正和 野中拓哉

署名 1, 359 名

